

「CBL 実習を通して」

M12092 湊田 祐里(和歌山県)

実習期間:8月22日(月)～9月2日(金)

実習施設: 高野町立 高野山総合診療所

住所: 〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 631 番地 TEL: 0736-56-2911

指導医: 廣内 幸雄先生(1期卒)

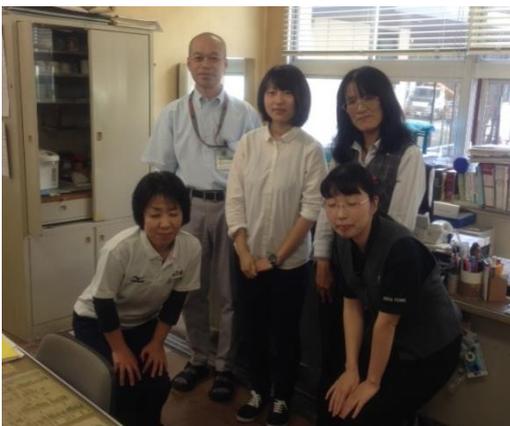
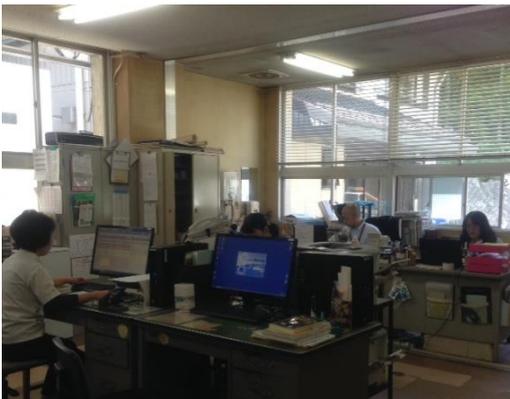
峰 巨先生(25期卒)

中村 有貴先生(35期卒)

臨床教員 竹井 陽先生(29期卒)

宿泊: 蓮花院

1. 実習施設と地域の概要



現在、高野町には約3千人の地域住民の方がいます。人口は年々減少し、高齢化が進んでいる町であります。一方で2004年の世界遺産登録以降、年間約200万人の観光客が訪れる観光都市という特色もあります。この町の唯一の医療機関が高野山総合診療所であり、2次医療機関まで行くとすると車で約1時間要します。高野山総合診療所の基本方針として2つの重要事項を掲げています。一つ目は僻地第一線診療所として地域住民の健康増進に寄与すること。二つ目は観光地における救急医療の確立することです。



現在、2階は通所リハビリを行うために
改装工事しています。1日10人程度の患
者さんをみていく予定です。

2. 実習内容 自己評価

①平成 28 年	午前	午後	その他
8月22日(月)	オリエンテーション	訪問看護/ 1診(廣内)	自治医大畠山医 師来院
8月23日(火)	放射線/2診(亀山)	1診(廣内)	自治医大畠山医 師来院
8月24日(水)	検査/心エコー/ 1診(廣内)	消防署実習	
8月25日(木)	南山苑実習 (特別養護老人ホーム)	1診(廣内) /眼科(金)	
8月26日(金)	廣内:内視鏡、エコー /1診(中村)	訪問診療 /整形外科(峰)	

②平成 28 年	午前	午後	その他
8月29日(月)	2診(中村)	1診(廣内)	
8月30日(火)	放射線/2診(亀山)	乳幼児健診(松森)	
8月31日(水)	検査/心エコー/ 1診(廣内)	事務所	
9月1日(木)	1診(廣内)	2診(中村)	
9月2日(金)	廣内:内視鏡、エコー /1診(中村)	まとめ	

□

①外来見学 自己評価：C

外来見学実習では慢性疾患のフォローを中心に患者さんがやってくる。実際に聴診を中心に身体診察、画像読影、採血をさせて頂いた。問診、身体診察でいかに見逃しを少なくするためにできるか、自分の中で順序を決めてみていく必要があると学べた。

②訪問看護 自己評価：C

寝たきり,地理的な問題で通うことが不可能,身寄りがおらず周囲に頼ることができる人が居ない等の理由で病院に通うことが不可能な場合に看護師さんがバイタル,服薬状況,褥瘡の状態等を確認し,身の回りのケアを行っていた。また、患者さんの現在の状態を医師に情報共有する現場をみて、常に連携をとることの重要性を学んだ。

③検査(血液/生化学、尿、心電図、呼吸機能、心エコー、内視鏡、放射線/CT) 自己評価：C

検査では実際に僻地ならではの胃バリウム造影検査やレントゲンの取り方を学んだ。また、心電図、心エコー等実査にさせて頂いてどこが重要な情報なのか的確に指示できるようになりたいと感じた。



内視鏡の練習をモデルを使って練習させて頂いた。

④南山苑/消防署実習 自己評価：C

南山苑では医師側と福祉側のミーティングの現場を見学させて頂いた。個々の入所者に対して医師側のアプローチ、福祉側のアプローチ、患者さんの要望(ニーズ)、家族の要望などさまざまなことを加味しなければならない立場となることを改めて実感させられた。消防署実習においても救急要請があった場合、救命士にどう情報を伝えるか等あらゆる職種の方との連携がスムーズにいく様に配慮していく必要があると思った。

⑤訪問診療 自己評価：C

患者さんの状態を自身の目で確認するという意味でも、患者さんとの関係をうまく維持していくためには重要なことであると感じた。

⑥整形外科/眼科外来見学 自己評価：C

整形外科では膝の関節注射、頸椎/腰椎疾患に関連した診察方法について学んだ。眼科では白内障、緑内障を始めとする加齢性病変やアレルギー結膜炎などの診察の見学をさせて頂いた。どのように患者さんが訴えて病院に受診するのか、どのように対処するか大まかではあるが学べた。

⑦乳幼児健診 自己評価:C

県職員としての行政に関わる現場を見学させていただいた。短時間の間で要領よく、問診、診察を行う必要がある。ポイントとしては泣かないように親御さんの協力、頭頸部の診察は最後に行う、玩具に集中を向けさせる等の工夫が必要であることを学んだ。

3. 考察

今回、2週間の実習を通して一次医療機関の役割、多職種との連携、保健所、医療/介護保険、リハビリテーションについて理解出来たと思う。以下に実習で特に印象に残った症例や体験について述べていきたい。

実習3日目、82歳の男性が腹痛、悪心、嘔吐を主訴に来院されました。既往歴として59歳で大腸癌、68歳で胆嚢炎があり、各々に対して手術されていました。問診と身体診察より鑑別診断として、腸閉塞、急性胃腸炎、癌の再発/転移、腹膜炎、代謝性疾患等を挙げました。腹部X線/CTと血液検査を追加し、腸閉塞(癒着性イレウス)と診断し、2次医療機関に搬送することになりました。処置としては末梢静脈路を確保した後、輸液を開始し、胃管チューブを入れ減圧を行いました。

救急患者の対応、例えば診断/治療方針の決定、紹介状の作成、約1時間要する2次医療機関への搬送の必要性の判断など身をもって学べたと感じました。

実習4日目と7日目は各々特別養護老人ホーム、乳幼児健診の見学をさせていただきました。具体的に、老人ホームでは患者さんのADLや介護保険認定状況、背景疾患、家族関係などの情報を共有した上で患者さんの要望に応えるために今後どうすべきかを医療者側と介護福祉側で話し合っていました。この話し合いで印象に残ったことは「24時間体制の福祉の提供がいかに困難であるか」ということと「一種のリハビリのように患者さんの機能回復を目的とした介護力向上委員会というものがある」ということです。また、乳幼児健診では町保健師の話、行政の現場を体験しました。いずれも、今後さらに重要視されるであろう介護福祉や保健医療の連携のあり方について考えさせられました。

実習8日目はリハビリテーションの見学をさせていただきました。症例は82歳の男性でパーキンソン病が背景にあり、今回は下肢機能改善を目的にリハビリを行っていました。実際には、関節可動域訓練、筋力増強訓練、歩行訓練、ストレッチ等を見学し、介護保険に関わる主治医意見書やリハビリ指示書の必要性や書き方の注意点などを学びました。

実習全体ではビデオの視聴、院長先生やその他職種の方々との話からプライマリ・ケアについて考えさせられました。地域医療を担っていくためには医療保険や介護保険という医療資源を有効に活用し、介護福祉施設、行政、保健所との情報共有や連携を行い、かつ「何でも診る」という総合医が必要であると改めて実感させられました。また、忘れてはいけないのは地域医療を行う上での覚悟、モチベーションを維持することと地域の住民だけでなくその他の人にも目を向け、交流を図ることであると感じました。

この 2 週間の実習を終えて、今後は医学的な知識は勿論、医療/介護保険, 県職員としての行政(保健所)の一面について学び、より一層大きくなって地域に帰って行きたいと思います。

4. 謝辞



廣内院長先生や中村先生を始めとする診療所のスタッフの皆様、お忙しい中、ご指導下さり心より感謝申し上げます。また、消防署、南山苑のスタッフの皆様、施設見学や貴重なお話を頂き感謝申し上げます。

これからいっそう勉学に励み、皆様の期待に沿えるような医師になりたいと思っています。

本当に 2 週間と長い間お世話になりました。